

1 議題1（情報提供）の概要

○病床機能報告（H30年分）の分析ツール（定量的な基準）による分析結果について

- 病床機能報告は、各医療機関が、病棟ごとに主な医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）を選択し、病床数を報告しているため、急性期の患者や回復期の患者が混在する実情を反映しきれない面があります。
- 定量的な分析ツールを用いることにより、回復期病床が大幅に不足しているという誤解が解消される利点があります。
- 厚生労働省では、地域医療構想調整会議における議論の活性化のため、病床機能報告に関し、定量的な基準を導入することとしており、愛媛県では埼玉県方式を採用し、これをベースに病床機能報告（H30年分）の分析を行ったので結果を報告します。

なお、定量的な基準は、病床機能報告の報告基準ではなく、討論するうえでの目安とするものです。

（詳細は別添資料1のとおり）

○今治構想区域の病床数等

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	計
R1.7.1 報告病床数	26	1,192	189	758	26	2,191
分析後のR1.7.1 報告病床数	126	626	665	693	81	2,191
2025年 必要病床数	119	682	708	430	—	1,939

